



名 称 / 大函電鉄工事橋台跡
所在地 / 大野町清水川農地内
発注者 / 大函急行電鉄株式会社
建設年 / 1931年～1937年の間

土木遺産の概要

「幻の大函電鉄」は、1925年函館の有志が発起人となり、函館の海岸町と大野の本郷（現在の鹿島橋付近）間に電車を走らせ、乗客と荷物を運搬するとともに、駅周辺など沿線に大規模な住宅団地を計画したものである。1931年には、施工許可もあり、工事は枕木・電柱など相当のところ進んだが、折からの財政不況により許可が取り消され幻の電鉄となった。写真は、唯一残っている橋台で、先人達のロマンは新幹線へと引き継がれる。